

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校)

都道府県名 静岡県

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	富士市立田子浦中学校					教員数
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	25
学級数	4	4	4	1	13	
生徒数	153	152	150	5	460	

研究の概要

1. 研究主題

個に応じたきめ細かな指導と意欲を喚起する授業の工夫

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年・全教科・全分野
 (「学力=生きる力=よりよい自己実現に必要な力」ととらえ、いろいろな場面で生徒を育てていきたいため)

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ「個に応じたきめ細かな指導と意欲を喚起する授業の工夫」</p> <p>研究の見通し(仮説) 「一人一人が明確な目標をもてるようなきめ細かな指導をし、意欲をもって学習に取り組めるような支援を工夫することによって、生徒が基礎・基本、応用力、自ら学ぼうとする力を身に付けることができれば、よりよい自己実現を図ることができるであろう。」</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力の定義 生きる力の基礎・基本=自ら学ぼうとする力 ・各分野での基礎・基本のおさえをどうとらえるか。 ・各教科での単元・教材ごとの基礎・基本のおさえ一覧 ・授業研究 数学科における少人数指導(全学年2クラスを3コースに) 意欲を喚起する手だて(学習課題提示の工夫、少人数による話し合い) ・補充・発展教材教具の開発 ・学習環境の整備 学習掲示板の作成 学活や道徳授業を充実 学級の耕し ・生徒の実態の把握 アンケートの実施
平成15年度	<p>テーマ「個に応じたきめ細かな指導と意欲を喚起する授業の工夫」</p> <p>研究の見通し(仮説) 「学習意欲を喚起し、きめ細かな指導を行うことにより、自ら学ぼうとする力が身に付き、よりよい自己実現が図られるであろう。」 (簡潔にとらえやすくするため変更した)</p> <p>研究内容・方法(14年度に追加のみ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語科における少人数指導(2,3学年で、2クラスを3コースに) ・チャレンジタイム(国数英の基礎問題を全校で) ・エンカウンターの実施(道徳、学級活動) ・小学校との連携
平成16年度	<p>テーマ「個に応じたきめ細かな指導と意欲を喚起する授業の工夫」</p> <p>研究の見通し(仮説) 「学習意欲を喚起し、きめ細かな指導を行うことにより、自ら学ぼうとする力が身に付き、よりよい自己実現が図られるであろう。」</p> <p>研究内容・方法(15年度に追加のみ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校との連携 ・研究発表会の開催 ・研究のまとめ

(3) 研究体制

研究推進委員会 - 研修部

- ┌ 授業改善・教材開発班
- ├ 学習環境改善班
- └ 学力分析班

平成15年度の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

- * 授業改善・教材開発班
 - ・「意欲を喚起する工夫」を取り入れた授業改善に取り組み、全教師が、公開授業を行い、教師個々の意識も高まり、生徒も興味深く授業に取り組んだ。
 - ・「意欲を喚起する工夫」の中で、特に課題作りや課題提示の方法を工夫することによって、生徒の意欲も高まった。
 - ・生徒の課題を明確にすることによって、追究する姿勢にも変化が見られた。
- * 学習環境改善班
 - ・「授業の約束」やノーチャイムデイなどの取り組みにより、生徒の授業に向かう姿勢が向上した。
 - ・1分間スピーチやエンカウンターの実践により、生徒同士が互いに良い所を認め合う雰囲気が出てきた。
 - ・特別活動等で「話し合いの場」を設定することにより、自己表現する力やよりよい方向へ実践していこうという気持ちが高まってきた。
- * 学力分析班
 - ・各教科ごと様々な方法で学力分析を行い、生徒の実態を把握するとともに学力の向上している姿をとらえることができた。

2. 今後の課題

- * 授業改善・教材開発班
 - ・発展・補充のための教材開発、習熟度別の体系的な教材開発
 - ・公開授業に対する協議の時間を確保し、授業改善をより充実させたい。
 - ・「話し合い、練り合いの場面」の充実。考えを深め、広げたい。
- * 学習環境改善班
 - ・基本的な学習習慣の向上（授業の約束の徹底）
 - ・学習の場としての環境整備（仲間作り、教室掲示、学校掲示など）
 - ・少人数クラス、選択教科のための教室、机、椅子の確保
- * 学力分析班
 - ・自己評価カードの活用方法
 - ・基礎・基本の定着や学力向上がどのような手だてによって行われたのか。
 - ・学力分析をどのように授業に生かし、どのような手だてを打っていくのか。
- * 全体として
 - ・各班が実践したことを研究協議する時間を確保し、更なる向上を目指したい。
 - ・学校教育全体のバランスを考えながら、それぞれの実践を効率よく行っていきたい。

学力把握のための学校の取組

- ・定期的な学習診断テストの実施（年4回）
- ・自己評価カード
- ・県学力定着度調査の結果分析

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・平成16年11月5日（金）に公開授業および研究発表を予定している。
- ・インターネット上のホームページは、平成15年度中に公開を予定している。
(<http://www.city.fuji.shizuoka.jp/j-tagoura/>)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- | | | | | |
|----------------------|---|--|--|---|
| 【新規校・継続校】 | 15年度からの新規校 | <input checked="" type="checkbox"/> 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | 3学級以下 | 4～6学級 | | |
| | 7～9学級 | 10～12学級 | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 13～15学級 | 16学級以上 | | |
| 【指導体制】 | <input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導 | T・Tによる指導 | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> その他 | | | |
| 【研究教科】 | <input checked="" type="checkbox"/> 国語 | <input checked="" type="checkbox"/> 社会 | <input checked="" type="checkbox"/> 数学 | <input checked="" type="checkbox"/> 理科 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 外国語 | <input checked="" type="checkbox"/> 音楽 | <input checked="" type="checkbox"/> 美術 | <input checked="" type="checkbox"/> 技術・家庭 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 保健体育 | <input checked="" type="checkbox"/> その他 | | |
| | | | | |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 | <input type="checkbox"/> 無 | | |